

講座「東京湾の科学」③
(6/19, 7/18)

◎ この講座は、笹川平和財団海洋政策研究所の「海洋教育パイオニアスクールプログラム」により、ご支援を頂いております。

6月19日(日)は、当初は地元浦安市の市民団体である「浦安三番瀬を大切に作る会」が行っている「東京湾の生き物のゆりかご『三番瀬』を学ぼう!PART2」のイベントの一つである「干潟(ひがた)を探検しよう」で浦安三番瀬に行く予定でしたが、東邦大学の風呂田先生のお誘いで、船橋三番瀬で行われる「江戸前アサリわくわく調査」に参加することになりました。

「江戸前アサリわくわく調査」とは、国土交通省や東京都・千葉県・神奈川県、東邦大学や各地の市民団体などが毎年行っているもので、この調査で東京湾各地でのアサリの成長や分布などを調べることができるというものです。

7月18日(月)の海の日には、浦安市郷土博物館の「海の日イベント」のお手伝いをしました。このお手伝いは今年で二年目になります。

<アサリわくわく調査6/19>

三番瀬は、浦安市・市川市・船橋市に囲まれた干潟ですが、この日は浦安市の対岸である船橋市の三番瀬に出かけました。浦安三番瀬と異なり、ここは広い砂浜が広がっています。この日は日曜日でしたので、潮干狩りが目当てで(違法に!)中止している自動車で、ほとんどの車道が埋め尽くされていました。我々は、正式な調査ですので、ちゃんとした駐車場が用意されていました。

「江戸前アサリわくわく調査」は、色々な市民団体が参加する調査ですので、我々以外にも各地から多くの方がいらしていました。

風呂田先生から調査の方法を教えて頂き、早速、干潟に向かいました。



浦安三番瀬と異なり、広い砂浜が広がっています



各地から多くの人々



風呂田先生から調査の方法を教えてください、早速、穴掘り



カゴの大きさに合わせた穴を掘り、その生物を収集します



この日は、(迷子防止の為?) おそろいの赤いバンダナをつけました



色々な生物が採れました



アサリは、ノギスで大きさをはかり、記録します



記念写真をパチリ

<郷土博物館海の日イベント7／18>

1876年（明治9年）、明治天皇は初めて東北地方を巡幸（じゅんこう＝天皇陛下が各地を旅行されること）なされ、帰路は、これも初めて船によって青森から横浜まで航海をされました。この横浜港に帰着された7月20日が後に「海の記念日」とされ、1996年（平成8年）に国民の祝日に、2003年（平成15年）の祝日法改正で、7月の第3月曜日とされました。

海の日は、「海の恩恵（おんけい）に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄（はんえい）を願う」ための祝日です。浦安市の郷土博物館でも、市民の皆さんに浦安の海に親んでもらうためのイベントを催しており、このイベントには、浦安市の市民団体である「浦安水辺の会」も協力しており、我がサイエンスクラスもそのお手伝いをしております。



浦安の三番瀬に住む色々な貝の貝殻（かいがら）

我々は、3つのグループに分かれてお手伝いをしました。一つ目は、浦安三番瀬に住む貝の説明です。二つ目は「お魚釣り」。三番瀬に住む色々な（紙で作った）魚を磁石の釣り針（つりばり）で釣り上げます。三つ目は「タッチプール」。水辺の会の皆さんが前日に三番瀬で採ってきた魚やカニ、ヤドカリなどを大きな水槽に入れ、実際に子供達に触（さわ）ってもらうものです。



お魚釣り



タッチプールにいる生物の説明を受けました

イベントは10時に始まりましたが、博物館入口正面におかれたタッチプールが一番人気。でも、生物に触れることの少ない子供達は、なかなか触ってみようとはしません。

「これがハゼです」「ヤドカリは噛みついたりしないから触ってごらん」

お魚釣りは、子供たちに大人気。学童前の小さい子には高校生のお姉さんがお手伝いしました。貝殻の展示では、貝殻に触りながら「浦安には、こんなに色々な貝がいるんだあ」という声がありました。



タッチプールは博物館入口正面におられました



お魚釣りは、小さい子たちに大人気



もっと小さい子には高校生のお姉さんがお手伝い



浦安には、こんなに色々な貝がいるんだあ



一番人気はタッチプール



最初はなかなか手を出さず、そのうちにコワゴワと



地元テレビ局の取材も受けました

以上（文責 サイエンスクラス統括：佐藤勝美）